

(様式第4号)

上田市文化財保護審議会 会議概要

1 会議名	上田市文化財保護審議会
2 日時	令和6年8月9日 午後1時30分から4時まで
3 会場	上田市役所南庁舎5階 502会議室
4 出席者	児玉委員、町田委員、太田委員、堀内委員、小倉委員
5 市側出席者	酒井教育長、上原生涯学習・文化財課長、和根崎上田城跡整備担当政策幹、古平文化財保護担当係長、松井主査、甲田主査、谷口主査、渡邊主事、（いずれも生涯学習・文化財課）、田中係長、内藤主事（丸子地域教育事務所）、三井係長（真田地域教育事務所）、若木係長（武石地域教育事務所）
6 公開・非公開	<u>公開</u> ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和6年8月20日

協議事項等

1 開 会（生涯学習・文化財課長）
2 あいさつ（教育長）
3 諮問 上田市指定文化財の可否について「誉田足玉神社本殿」を諮問
4 議事 (1) 上田市指定文化財の諮問案件について (会長) 前回の審議会で6件、今回1件の諮問をいただいている。建造物2件を次回の審議とし、今回は刀と仏像について審議して答申の方向性まで確認することとしたい。 ア 刀 (委員) 刀の出来は誰が見ても素晴らしい。銘から上田で打ったことがはっきりしており、上田市の指定文化財としてふさわしい。 (委員) 所有の経緯は。 (委員) 昭和50年代に長野県内の他市町村の方が所有していたことは分かっている。昭和60年代に現所有者が所有し、大切に保管されている。 (委員) 刀剣を指定する条件や規定はあるか。 (事務局) 刀自体の出来栄や特徴、希少性で判断される。明文化された条件はない。 (委員) 銘にある「青木安榮」とはどういう人か。 (委員) 上田藩士の名簿に青木の名があったが、これだけの名品を持てる人物とは思えない。松代の藩士名簿にも青木の名があり、こちらの可能性が考えられる。 (会長) 刀については指定が望ましいとして答申する方向でよいか。 (委員) 異議なし。 (会長) 答申書を担当委員と事務局で作成し、改めて案を提示してください。 イ 前山寺大日如来坐像 (委員) 快慶や快慶の弟子たちに近い工房で作られる仏像の特徴がある。13世紀半ばのものと思われる。中世に遡る、出来栄のいい仏像である。 (委員) 材から年代を測定することは可能か。 (委員) 可能だが、材を切り取らないとできないため難しい。修理したときに出土材を使うことは考えられるが、伐採年代は制作年代とは異なる。

- (委員) 切金は日本独特の技術なのか。
(委員) これだけの技術は日本だけだと思う。
(委員) 出来栄は、全国的に見てどうか。
(委員) 素晴らしいもの。快慶工房の特徴を持つ作品は東日本にはあまりない。

ウ 神畑薬師堂薬師如来立像

- (委員) 平安時代後期、10 世紀ごろのかなり古い仏像である。中国風の唐服を着ている。3 種類の仏像の特徴を持っており珍しい。平安前期にもこのような作品はあり、京都のお寺にも通称吉祥薬師と呼ばれる 10 世紀後半の像がある。
吉祥天とは姿が異なるが、古い作り方をしている。かなり前傾姿勢になっており平安前期の特徴である。全国的に見てもかなり珍しく、上田市内でも最古になると思われる。
(委員) 色の見解は。
(委員) 色は後から直したもので、古色にしている。
(委員) 仏師の情報は。
(委員) 平安時代の仏師の情報はあまりない。10 世紀前半で仏師の系統を示すのは難しい。形や姿勢などに平安前期の特徴が見られる。
(委員) 地域との結びつきはどうか。信仰など。
(事務局) 「薬師平」と呼ばれる場所にあったという伝承があるが、信仰と結びついた記録はない。

エ 芳泉寺阿弥陀如来坐像

- (委員) 平安時代後期の特徴を残した鎌倉時代の作。下部に渦巻のような模様があり、平安前期の特徴も表している。元和 8 年に寺の建て替え工事を行っており、見合った仏像をお迎えした可能性もある。
(委員) 金で塗ったのは最近か。
(委員) いつとは断言できないが、近代か現代に直したと思われる。かなり厚めに塗っておりシャープさが薄れたように感じるが、像内を見ると古さが分かる。これだけ大きい御本尊は上田市にはあまりない。
(委員) 塗られる前の写真はあるか。
(委員) ない。
(委員) 坐高は高さか。
(委員) ほぼ等身大。中禅寺にも平安時代後半で比較的大きなものがあるが、本尊で平安中期に遡るものは芳泉寺のものくらいかと思う。

オ 芳泉寺阿弥陀如来坐像

- (委員) 出来栄のいい作品。本尊と比べてなで肩で薄くさっぱりした感じがあり、平安後期の特徴がみられる。一方で玉眼、引き締まった顔つきがあり、平安から鎌倉へ移行するあたりの作品ではないかと思う。表面仕上げがされているが保存状態は良い。美術的に見栄えのいい作品である。
(委員) 表面仕上げはどうか。
(委員) 本尊に比べると薄い。
(委員) 割剥ぎ造りは上田にもあるのか。
(委員) 上田にもよくある。技法としては、一本でとって割剥ぎをして、寄木をして材をつくる。小さいものの場合は何本も寄せ集めるのではなく、一本の木で割って造る。メジャーな技法である。
(委員) 本尊の裏側にあるが、どのようなものか。
(事務局) 「裏本尊」という呼び方をしているので、本尊に準ずる扱いはしていると思われる。
(委員) 本尊と裏本尊で制作年代はどうか。
(委員) ほぼ同じ年代だが、裏本尊の方が古いと思われる。裏本尊が、今の本尊をお迎えする前の本尊だとしたら面白いが、分かっていない。

(会長) 仏像 4 件については指定が望ましいとして答申する方向でよいか。

(委員) 異議なし。

(会長) 答申書を担当委員と事務局で作成し、改めて案を提示してください。

(2) 報告事項

ア上田城跡整備事業の進ちょく状況について

(事務局) 武者溜り整備事業（旧市民会館解体）及び尼ヶ淵崖面の一部崩落について説明。

(委員) 武者溜り整備の完成はいつごろか。

(事務局) 現在、令和 10 年頃を目指しているが、発掘調査の結果により復元・再現がどこまで可能か、整備基本計画改訂の中でも検討していく。

(委員) 復元はどのレベルまで考えているか。

(事務局) 現時点では武者溜りとその周辺にあったとされる石垣と三十間堀の復元を目指しているが、完全復元できない場合は何らかの方法で表現していきたい。

(委員) 尼ヶ淵崖面は、伐採したほかに危険な樹木はあるか。

(事務局) 樹木自体が今回の崩落の原因だったわけではないが、さらなる崩落を招く可能性を考えて伐採した。他に同じような生え方をしている樹木は見当たらない。

5 その他

(事務局) 次回、建造物 2 件の諮問案件の審議をお願いしたい。また、今回審議いただいた案件について答申書の案を提示するので、確認いただきたい。

6 閉 会